

教科 [ 国語 ]

科目名	現代文B			略称	現代文
単位数	2	科目の種類	共通	関連系列	全系列
授業形態	クラス単位による一斉授業				
		◆近代以降のさまざまな文章を読解する。ことばや文学に関する造詣を深め、言語感覚を豊かにするとともに、ものの見方・感じ方・考え方を学び、深めていくことでコミュニケーションの基礎能力を高めることを目標とする。			
科目の内容	一学期	○ 漢字の知識、語句の意味や用法など、国語の基礎力を高める。 ○ 近代以降の小説を読み、人物の描き方、表現技法などについて学ぶとともに、主題をとらえて鑑賞し、文学に対する理解を深める。 4月 随想      5月 小説      6・7月 評論			
	二学期	○ 評論など論理的な文章に触れ、的確に論旨を捉える読解力を高めるとともに、論理的なものの述べ方、表現の仕方などについて理解していく。 ○ 漢字・語句についての力を確かなものにしていく。 9月 詩   10月・11月 小説   12月 短歌・俳句			
	三学期	○ 詩や短歌、俳句などの韻文を鑑賞し、ことばに対する感覚を磨き、修辞・表現技法を学ぶ。 ○ 日本文学史上重要な作品・作者について学び、文学史の知識を豊かにする。 ○ 小説・評論などのやや高度な文章を精読し、読解力をさらに高める。 1・2月 評論      3月 その他の文章			
履修対象	2年次生				
評価方法	定期考査（年5回） 定期考査を主とし、提出物・小テストなどの平常の活動を加味して総合的に評価する。				
教材	教科書・「最新国語便覧」・「書いてマスター常用漢字」・プリント類				
諸経費	問題集購入費				
備考	長期休業中に、読書レポートなどの課題を課する。				

科目名	国語表現			略称	国表
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	美術・デザイン 国際・コミュニケーション スポーツ・健康
授業形態	科目選択者による一斉授業				
		◆ことばによる表現のための基礎技術（スキル）を学び、継続的な演習を行うことで言語表現能力を高めることを通年の目標とする。			
科目の内容	一学期	4・5月 文章作成（書く）ための基礎（ことばの基礎）の確認および演習を行う。 あわせて、多様な種類の文章を書く。 6・7月 さまざまな言語表現に接し、その意図、表現技術などについて、分析しながら学習する。			
	二学期	9月 さまざまな言語表現について調査・研究を行い、レポートを作成・発表する。 10月・11月 的確な情報伝達のために、資料を用いながら文章を書く。 12月 書いた作品を元に、よりよい文章表現について学ぶ。			
	三学期	1月・2月 論理的な文章（小論文）の書き方を学ぶ。書いた文章を元に、よりよく書いていくための学習を行う。 3月 基礎レベルの小論文を書く。			
履修対象	・言語による表現活動全般に興味のある者 ・進路のために文章表現の学習を希望する者				
評価方法	定期考査（年2回予定）定期考査と課題提出などの平常活動を総合的に評価する。夏季にレポート作成を行う予定。				
教材	教科書・「基礎からの国語表現の実践」（京都書房）・「最新国語便覧」・プリント類				
諸経費	問題集購入費				
備考	毎時間の課題を重視する科目なので、遅刻・欠席をしないこと、および課題の提出を怠らないことが重要である。				

科目名	古典 B			略称	古典
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	◆文語文法の基本的事項を確実に理解する。(用言の活用、助動詞、助詞) ◆敬語や修辞法を通じて、日本の表現方法の特質を理解する。 ◆漢文の基本的な句法を確実に理解する。 4月【古】説話 5月【古】随筆 【漢】故事 6月【漢】逸話 【古】歴史物語 7月【古】歴史物語			
	二学期	◆一学期に学習した基本的事項をもとに、多くの作品を読み味わう。 9月【古】和歌 【漢】詩 10月【漢】史伝 11月【古】物語 12月【古】物語 【漢】文			
	三学期	◆一学期に学習した基本的事項をもとに、多くの作品を読み味わう。 1月【古】歌論・随筆 2・3月【古】随筆 【漢】寓話			
履修対象	●文系の大学進学希望者 ●大学入試センター試験受験予定者(国公立大学進学希望者及びセンター試験利用の私立大学進学希望者) ●古典の学習に興味・関心・意欲が高い者				
評価方法	定期考査 年5回実施 定期考査を主とし、小テスト、提出物などの平常活動を加味して総合的に評価する。				
教材	教科書、1年次に購入した副教材全て、単語集等 ※教材は3年次「古典演習」で継続使用				
諸経費	問題集購入代 700円程度(長期休業中の課題用 ※教科書購入の際同時に購入)				
備考	◇予習→授業→復習のサイクルを前提に授業を進める。 ◇定期的に小テストを実施する。 ◇冬季休業明けに「百人一首大会」の予選を実施する。				

科目名	*文芸創作			略称	文芸創作
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業および個別指導				
科目の内容	一学期	4・5月 ・日本のさまざまな文芸作品の文体についての考察 ・修辞法や論法など表現の効果を高める手法の学習 ・作品の鑑賞と批評 6・7月 ・小作品の創作 ・作品の発表と相互批評→推敲			
	二学期	9月 ・銀翼祭での発表活動準備(小作品の制作等) 10月 ・他の生徒の作品の鑑賞と批評 ・各自の創作テーマと表現方法の決定 11・12月 ・創作活動(個別指導)			
	三学期	1～3月 ・創作した作品の発表と相互批評 ・成果のまとめとしての作品集制作			
履修対象	文芸作品の創作に高い関心と意欲のある者 ※2・3年次生同時履修				
評価方法	平常の活動状況と提出作品を総合的に評価する。				
教材	選択者確定後に指示				
諸経費	作品集の制作費(紙代) 1,000円程度				
備考	毎回出席して積極的に活動に取り組むことと、途中で投げ出さない根気強さが必要。 2年次で履修した場合、3年次は履修できない。				

教科 [ 地理歴史 ]

科目名	世界史A			略称	世界史A
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	諸地域世界の形成と世界史の成立 4月：諸地域世界の成立 5月：アメリカとフランスの革命・産業革命 6月：ヨーロッパ市民社会の発展 7月：アジア諸国とヨーロッパの進出			
	二学期	現代史 9月：帝国主義と世界の変容 10月：第一次世界大戦と民族主義の展開 11月：ファシズムの台頭と第二次世界大戦 12月：米ソ冷戦とアジア・アフリカ			
	三学期	1月：地球社会への歩みと日本 2月：地域紛争と国際社会 3月：科学技術と現代文明			
履修対象	早めに世界史の履修条件を満たしたい人。(文系で世界史での受験を考えていない人。)				
評価方法	評価方法は考査や授業への取り組みなどを加味して総合的に判断する。				
教材	明解新世界史 (帝国書院)・タペストリー (帝国書院)・プリント等				
諸経費					
備考	世界史Aを選択したあと世界史Bも選択できますが学習内容が重複します。よく考えて決めること。				

科目名	世界史B			略称	世界史B
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	美術・デザイン、国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4～5月：オリエントと地中海世界 6～7月：アジア・アメリカの古代文明 東アジア世界の形成と発展			
	二学期	9～10月：内陸アジア世界の変遷 イスラーム世界の形成と発展 11～12月：ヨーロッパ世界の形成と発展			
	三学期	1～2月：アジア諸地域の繁栄			
履修対象	世界史に興味のある人。受験科目として世界史を考えている人。 入試科目として考えている生徒は、3年次でひきつづき世界史 B 演習を履修することが望ましい。				
評価方法	定期考査を主とし、授業への取り組みなどを加味して総合評価する。				
教材	詳説世界史 (山川出版社)・タペストリー (帝国書院)・問題集・プリント等				
諸経費					
備考	世界史における文化史は「世界文化史」の講座にて扱います。				

科目名	日本史A			略称	日本史A
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	すべての系列
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月	江戸時代までの日本歴史の概説		
		5月	江戸時代の社会状況		
		6月	幕藩体制の動揺		
		7月	明治維新と近代国家の成立		
	二学期	9月	国際関係の推移と近代産業の成立		
		10月	政党政治の展開と大衆文化の形成		
		11月	第二次世界大戦と日本		
		12月	第二次世界大戦と日本		
	三学期	1月	戦後の政治と社会		
2月		経済国家としての発展			
3月		現代の日本と世界			
履修対象	地歴科の履修条件を満たす必要のある生徒				
評価方法	定期考査あり。 定期考査を主とし、授業への取り組みなどを加味して総合評価する。				
教材	教科書、図説、プリント等				
諸経費					
備考					

科目名	日本史B			略称	日本史B
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	美術・デザイン、国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	大学受験レベルに対応できる政治・社会・経済史など一般通史を学ぶ。			
		4月	旧石器時代から弥生時代		
		5月	古墳時代、ヤマト政権、推古朝		
		6月	律令国家、奈良時代		
	二学期	7月	平安時代初期の政治		
		大学受験レベルに対応できる政治・社会・経済史など一般通史を学ぶ。			
		9月	摂関政治、荘園と武士、		
		10月	院政、武士の登場、平氏政権		
	三学期	11月	鎌倉時代		
		12月	室町幕府の成立		
		大学受験レベルに対応できる政治・社会・経済史など一般通史を学ぶ。			
		1月	室町時代後半		
履修対象	文系大学に進学希望の者、日本史を詳細に学びたい意欲のある者				
	2月	幕藩体制の成立・展開			
評価方法	定期考査あり。 定期考査を主とし、授業への取り組みなどを加味して総合評価する。				
	3月	幕藩体制の成立			
教材	教科書、図説、問題集				
諸経費					
備考	幕藩体制の動揺以降の範囲は、3年次の「日本史B演習」で実施する。また飛鳥文化以降の文化史は3年次の「日本文化史」で詳細に実施する。				

科目名	地理 B			略称	地理 B
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月～7月 ①地形環境、気候環境を中心に地球環境を理解し、人々の生活との関連を理解する。 ②農産物や鉱産物などの生産・流通の仕組み、世界の衣食住の概要を理解し、生活と文化についての基本的事象を理解する。			
	二学期	9月～12月 ①地形図の読み方を習得し、地域調査法を理解する。 ②世界の様々な地域（アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア）の生活や文化を理解する。身近な地域の調査法を理解する。また、世界各国の地誌を中心に、地理全般について基礎的な学習を行う。			
	三学期	1月～3月 ①日本の近隣諸国（韓国、中国、ロシア）の生活や文化を理解し、日本との関係を考察する。 ②人口問題、食糧問題、都市問題、資源・エネルギー問題などの、現代社会が抱える世界的・地球規模的な諸問題を取り上げ、その現状と対策を考察し、その解決策を探る。			
履修対象	地理で大学受験を考えている人、受験には必要なくても、地理的な出来事や世界の諸問題に関心がある人、地図を見たり旅行したりすることが好きな人など。				
評価方法	定期考査を主とし、白地図の作業学習や課題の提出状況も加味し、総合的に評価する。				
教材	教科書 地図帳 資料集				
諸経費					
備考					

教科 [ 数学 ]

科目名	数学A			略称	数学 A
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	
授業形態	講義				
科目の内容	1 学期	* 場合の数と確率 集合とその要素の個数 (集合、集合についての表記) 場合の数 (和の法則・積の法則、順列、組合せ)			
	2 学期	* 確率 事象と確率、確率とその基本性質、独立な試行と確率、反復試行の確率、条件付き確率 * 整数の性質 約数と倍数 (約数と倍数・最大公約数と最小公倍数、整数の割り算と商および余り)			
	3 学期	* 整数の性質 ユークリッドの互除法 (ユークリッドの互除法、一次不定方程式) 整数の性質の活用 (n 進法、分数と小数)			
履修対象	進学希望者で数学 A を必要とする者				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	教科書・問題集				
諸経費	問題集代				
備考					

科目名	数学Ⅱ			略称	数学Ⅱ
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	講義・演習				
科目の内容	一学期	4 月 式と計算 5 月 等式と不等式の証明、複素数と方程式 6, 7 月 点と直線、円、軌跡と領域			
	二学期	9 月 三角関数、加法定理 10 月 指数関数 11 月 対数関数 12 月 微分係数と導関数			
	三学期	1 月 導関数の応用 2, 3 月 積分			
履修対象	理数系大学進学希望者または理数系科目に興味を持つ者				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	教科書・問題集				
諸経費	問題集代				
備考					

科目名	数学B			略称	数学B
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	講義・演習				
科目の内容	一学期	4月 等差・等比数列 5月 いろいろな数列 6, 7月 漸化式と数学的帰納法			
	二学期	9, 10月 ベクトルとその演算 11, 12月 ベクトルと図形			
	三学期	1, 2月 空間座標と空間のベクトル 3月 空間のベクトルの応用			
履修対象	理数系大学進学希望者または理数系科目に興味を持つ者				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	教科書・問題集				
諸経費	問題集代				
備考					

科目名	数学 I ・ A 演習 X			略称	数 I A 演 X
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	
授業形態	講義・演習				
科目の内容	一学期	4月 数と式 5月 数と式, 2次関数 6, 7月 2次関数			
	二学期	9, 10月 図形と計量 11, 12月 場合の数と確率			
	三学期	1月 整数の性質 2月 整数の性質, 総合演習 3月 総合演習			
履修対象	大学入試センター試験 (数学 I ・ A を利用する受験者) および看護系進学・公務員試験受験予定者で、数学 I ・ A の問題演習が必要なもの				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	教科書・問題集				
諸経費	問題集代				
備考					

教科 [ 理科 ]

科目名	物理基礎 $\alpha$			略称	物基 $\alpha$
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	
授業形態	講義・実験				
科目の内容	一学期	運動とエネルギー、熱、波、電磁気の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則を理解するとともに、自然に対する興味・関心を高める。			
	二学期	4月、5月	物体の運動		
		6月、7月	力と運動		
	三学期	9月	仕事と力学的エネルギー		
10月		熱			
	11月、12月	波の性質、音			
	1月	電気と磁気			
	2月	エネルギーとその利用、物理学が拓く世界			
履修対象	センター試験等受験で物理基礎を必要とする者は物基礎 $\beta$ を履修すること。				
評価方法	定期考査・出席点・提出物点・授業態度で総合的に評価する。				
教材	教科書・問題集、プリント				
諸経費					
備考					

科目名	物理基礎 $\beta$			略称	物基 $\beta$
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	講義・実験				
科目の内容	一学期	運動とエネルギー、熱、波、電磁気の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則を理解するとともに、科学的な自然観を養う。			
	二学期	4月、5月	物体の運動		
		6月、7月	力と運動		
	三学期	9月	仕事と力学的エネルギー		
10月		熱			
	11月、12月	波の性質、音			
	1月	電気と磁気			
	2月	エネルギーとその利用、物理学が拓く世界			
履修対象	理工系学校志望者。物理基礎を受験で必要とする者。 センター試験入試を希望する者。				
評価方法	定期考査（年5回）・出席点・提出物点・授業態度で総合的に評価する。				
教材	教科書、問題集、プリント				
諸経費					
備考					



科目名	化学基礎 $\alpha$			略称	化基 $\alpha$
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	
授業形態	講義・演習・実験				
科目の内容	一学期	化学の基礎・基本を学習します。実験も行います。 4月 物質の探求 5月 元素の構造と元素の周期表 6月 化学結合 7月 物質量			
	二学期	9月 化学反応式と量的関係 10月 酸と塩基 11月 中和反応 12月 酸化還元反応			
	三学期	1月 イオン化傾向と電池 2月 電気分解と量的関係			
履修対象	化学を受験で必要としない生徒。 大学入試センター試験の「化学」を受験する予定の人は「化学基礎 $\beta$ 」を履修すること。				
評価方法	主に定期考査で評価するが、その他、出席状況・実験レポート・提出物・授業への取り組み等を総合的に加味する。				
教材	教科書・問題集・図表・プリント				
諸経費					
備考					

科目名	化学基礎 $\beta$			略称	化基 $\beta$
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	講義・演習・実験				
科目の内容	一学期	講義・演習を中心に化学の理解を深めます。実験も行います。 4月 物質の探求 5月 元素の構造と元素の周期表 6月 化学結合 7月 物質量			
	二学期	9月 化学反応式と量的関係 10月 酸と塩基 11月 中和反応 12月 酸化還元反応			
	三学期	1月 イオン化傾向と電池 2月 電気分解と量的関係			
履修対象	理工系の大学や専門学校への進学を考えている生徒。 化学で受験をする予定の生徒、進学先で化学が必要な生徒、詳しく化学を学習したい生徒。				
評価方法	主に定期考査で評価するが、その他、出席状況・実験レポート・提出物・授業への取り組み等を総合的に加味する。				
教材	教科書・問題集・図表・プリント				
諸経費					
備考					

科目名	生物基礎演習 X (生物基礎)			略称	生基演習 X
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	
授業形態	講義・実験・演習				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝とATP等 (復習と問題演習)</li> <li>・遺伝子の本体等 (復習と問題演習)</li> <li>・遺伝情報とタンパク質の合成等 (復習と問題演習)</li> </ul>			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体防御等 (復習と問題演習)</li> <li>・問題演習</li> </ul>			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題演習</li> </ul>			
履修対象	理工系の大学や専門学校への進学を希望する者 (ただし、2年次に『生物基礎演習 X』を履修した者は3年次に『生物基礎演習 Z』を履修することができない。)				
評価方法	定期考査、提出物 (実験レポート等)、出席状況、授業態度等から総合的に判断する。				
教材	教科書、資料集、問題集				
諸経費					
備考					

[ 保健体育 ]

科目名	体育 2			略称	体育 2
単位数	2	科目の種類	共通 (必修)	関連系列	
授業形態	2クラス合同、男女別で行う。				
科目の内容	一学期	バレーボール、テニス、水泳、バスケットボール、ダンス (女子)、柔道			
	二学期	水泳、バドミントン、バスケットボール、テニス、ランニング、バレーボール、ダンス (女子) 柔道			
	三学期	ランニング、テニス、バドミントン			
履修対象					
評価方法	出席、活動状況を総合的に評価する。				
教材	テキスト (カラーワイドスポーツ)				
諸経費					
備考	年度によって種目の変更をする場合もあります。				

科目名	保健 2			略称	保健 2
単位数	1	科目の種類	共通 (必修)	関連系列	
授業形態	クラス単位での授業				
科目の内容	一学期	3章 社会生活と健康 大気汚染と健康・水質汚濁、土壌汚染と健康・環境汚染を防ぐ取り組み			
	二学期	3章 社会生活と健康 ゴミの処理と上下水道の整備・食品の安全を守る活動 グループで課題を設定し、その課題の研究をおこなう。			
	三学期	グループで課題を設定し、その課題の研究、発表を行う。			
履修対象					
評価方法	定期考査 (1学期・2学期) レポート、発表の内容、活動状況、出席を総合的に評価する。				
教材	教科書				
諸経費					
備考					

教科 [ 体育 ]

科目名	*スポーツ専攻中級			略称	ス専中
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・健康
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	団体種目・個人種目から選択し、年間を通じ実技・理論を学習する。			
	二学期	1学期と同様、及びスポーツ大会の企画・準備・運営			
	三学期	1学期と同様			
履修対象	体育大学進学者以外の者も履修してください。2年生・3年生				
評価方法	出席状況、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費					
備考	運動部等に所属し、活動に支障のないスキルと自己の能力をスキルアップする態度を身につけていること。				

科目名	*リバースポーツ			略称	リバスポ
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・健康
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーやシーカヤックの特性を講義や実技を通して理解する。</li> <li>・カヌーやシーカヤック等を使用し川で安全活動ができるようにする。</li> </ul>			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺での事故防止や救急法を理解するとともに、実践できるように習得する。</li> <li>・プールにおいて、カヌーを利用した球技等を実施する。</li> </ul>			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全にキャンプや水辺での活動を行えるように、指導法や理論を身につける。</li> <li>・多摩川流域の調査、問題提議を行い、グループ学習によりレポート作成を行う。</li> </ul>			
履修対象	2・3年次で生涯的に水辺や山でのレクリエーションの指導や活動を身につけたい者。				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費					
備考	・水辺で使用する、衣類および専用の靴を用意すること。				

科目名	野外活動X			略称	野活X
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・健康
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動の基礎的な知識・技術の習得。</li> <li>・集団でのコミュニケーション能力の習得。</li> </ul>			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動で使用する、道具の整理および用品を自ら作成し使用する。</li> <li>・着衣泳や飯盒炊爨などを行う。</li> <li>・環境との調和を理解するとともに、エコについて考え実践していく。</li> </ul>			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションゲームを実践し、リーダーシップをとれるように学習する。</li> <li>・自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく実践できる能力を身につける。</li> </ul>			
履修対象	2・3年次				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費	年間 4000 円				
備考	・野外活動で必要とされる、衣類、専用のシューズを用意すること。				

科目名	スポーツ概論 I			略称	スポ概 I
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・健康
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育スポーツに関する知識や社会におけるスポーツの意義、問題点について学ぶ。</li> <li>・ 筋肉の構造や働き等を学習する。</li> </ul>			
	二学期	・ 1 学期と同じ			
	三学期	・ 1 学期と同じ			
履修対象	2 年次				
評価方法	定期考査 1 学期、2 学期 出席、活動状況、定期考査の内容等を総合的に評価する。				
教材	テキスト 1・2 年次使用の保健の教科書				
諸経費	年間 2000 円				
備考					

教科 [ 芸術 ]

科目名	*現代の音楽X			略称	現代音楽X
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業及びグループ活動（1講座 名程度まで）				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽曲 音の長さ、リズムと拍子、音程</li> <li>・ 発声法 平易な2部、3部合唱を使用して</li> <li>・ リズム打ち、リズム聴音</li> </ul>			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合唱 ハーモニーを重視して</li> <li>・ 楽器演奏 鍵盤楽器、ギターなど（独奏およびアンサンブル）</li> </ul> 楽典 音階、調性			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞 ミュージカル、オペラ</li> </ul> 合唱コンクール練習			
履修対象	音楽系、保育系の進路を考えている者。また、音楽を真剣に愛好する者。				
評価方法	活動ごとの実技テスト、及び鑑賞などのレポート提出。また出席状況、授業態度を加味し総合的に評価する。				
教材	教科書他				
諸経費	楽譜代（約1,000円程度）※都合によって変更する場合があります。				
備考	グループ学習があるため履修生徒は20名程度にとどめる				

科目名	*現代の工芸			略称	現代工芸
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業（1講座20名程度）				
科目の内容	一学期	様々な材料を用いて作品を制作する中で、「用と美」の心と表現する力を深く学ぶ。 ワックス・モデリングによる銀の指輪制作			
	二学期	新素材による立体造形（技法の応用） 七宝技法の研究			
	三学期	現代の工芸による表現			
履修対象	2年、3年次生を対象とする。				
評価方法	完成作品が提出されていることが前提で、出席状況・授業態度、作品の制作過程、完成度などを総合的に評価する。				
教材	教科書、スケッチブック、配布プリントなど				
諸経費	材料費の購入に5,000円程度必要				
備考	削る・磨くなどの細かくて地味な作業が多く、課題によっては正確さを求められる。 課題作品には意欲・根気を持って取り組み、提出期限を守ること。 ※ 課題内容は都合により若干変更される場合があります。 尚、有機溶剤や漆のアレルギーを持っている生徒は事前に相談してください。				

科目名	*現代の書道			略称	現代書道	
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列		
授業形態	科目選択者による一斉授業					
科目の内容	一学期	4月	オリエンテーション			
		5月	現代の書の傾向			
		6月	古典の学習			
		7月	書道史			
	二学期	9月	様々な用具・素材による創作活動			
		10月	様々な用具・素材による創作活動			
		11月	刻字			
		12月	篆字			
	三学期	1月	身のまわりの文字			
2月		身のまわりの文字				
3月		身のまわりの文字				
履修対象	書の多様な世界に興味があり、書の表現技術を高めようと思う者。					
評価方法	提出作品、学習意欲や学習態度などを元に総合的に評価する。定期考査なし。					
教材	プリント					
諸経費	半紙・墨液などの教材費					
備考	筆・文鎮・下敷きなどは生徒が用意する。					

科目名	*陶芸 I			略称	陶芸 I
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	手びねりにより基礎行程を学ぶ			
		電動ろくろの基本技術を学ぶ			
	二学期	電動ろくろの練習、演習と扱い方法から基本形体を作る（茶器など）			
三学期	電動、手びねり、各自選択して制作する				
三学期	課題制作、食器、花器の制作				
履修対象	陶芸を通して生活を豊かにしたい者				
評価方法	観点別に、関心・意欲、発想・構想、独創・技能、鑑賞、特に技能を重視する				
教材	配布プリント、ビデオ、その他				
諸経費	5,000 円程度（材料費として）				
備考	作業着が必要（ジャージ可） ※課題内容は都合により変更される場合があります。				

科目名	*鍵盤楽器演習 X			略称	鍵盤演 X
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者個々の段階に応じた個別実技学習。(1講座12名まで)				
科目の内容	一学期	各自の段階を把握し、ピアノ実技課題を設定する ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。必要に応じて読譜のための楽典の学習も行う 1学期末実技発表会			
	二学期	新たな課題を設定する ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。 2学期末実技発表会			
	三学期	新たな課題を設定する ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。 3学期末実技発表会			
履修対象	音楽系及び保育・福祉系の進路を考えている者。また鍵盤楽器での演奏に興味を持っている者。				
評価方法	各期に行う実技発表での演奏を評価する。 また、普段の授業での取り組み方(態度)も加味する。				
教材	初心者「標準バイエルピアノ教則本」				
諸経費	楽譜代として1000円～2000円程度				
備考	音楽室の環境(楽器及び電源)に制限があるため、履修生徒数は12人以内にとどめる。				

科目名	素描 A			略称	素描 A
単位数	4	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	鉛筆、木炭を用いて素描(デッサン)作品を制作。描写の基礎技術を習得する。 4月～5月 両手のデッサン 5月～6月 石膏デッサン(半面面取り) 7月 石膏デッサン(首像)			
	二学期	9月～10月 静物デッサン(中型モチーフ) 10月～11月 校舎内外風景 11月～12月 静物細密デッサン			
	三学期	1月 想定構成デッサン 2月 人物デッサン(モデル)			
履修対象	美術系進路希望者、描写の技術を徹底して身に付けたい者。 2、3年でビジュアルデザイン、絵画を履修予定の者は、本授業を履修することが望ましい。				
評価方法	完成作品の他、制作過程、出席状況などを総合して評価する。				
教材	素描用具・材料一式				
諸経費	8,000円程度				
備考	毎回の課題作品に集中して取り組み、完成させることが必要となる。 年間を通して自宅などでの宿題課題を課す予定である。 課題内容は変更することがある。				



科目名	絵画 A			略称	絵画 A
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	油絵作品制作を通して、油絵技法の基礎を十分修得し、対象を観察・表現する力を養う。 オリエンテーション、キャンバス張り 静物画			
	二学期	静物画No. 2			
	三学期	モデル人物画			
履修対象	原則として1年で絵画初級を履修した者（絵画初級を履修していない者でも履修できるが、履修登録前に必ず教科と相談すること）。 美術系進路希望者（または同等の指導によって絵画表現の技術を身に付けたい者）。 同時に素描Ⅰを併修することが望ましい。ビジュアルデザインⅠとの併修可。				
評価方法	完成作品の他、制作過程、出席状況、および美術館鑑賞レポートを総合して評価する。				
教材	油絵用具・材料一式				
諸経費	油絵追加画材・キャンバス代として10,000円程度（油絵セットを持っていない生徒は別に10,000円程度必要です。）				
備考	毎回の課題作品に集中して取り組み、完成させることが必要となる。 長期休業中に自宅などでの宿題課題を課す。 ※課題内容は都合により変更することがある。				

科目名	ビジュアルデザイン A			略称	ビジデ A
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	・デザインの基礎			
	二学期	・平面デザイン			
	三学期	・平面構成			
履修対象	美術大学、専門学校のデザイン系・工芸系学科への進学希望者。 高レベルの課題に根気強く取り組める者。				
評価方法	授業での活動状況、課題への取り組み、作品の内容、プレゼン発表、出席状況を総合的に評価する。				
教材	平面デザイン用具一式				
諸経費	10,000円程度				
備考	個人の制作状況によっては、絵具の補充などで、さらに経費がかかる場合がある。 制作の進行具合を見て課題を変更します。				

科目名	クラフトデザインⅠ			略称	クラデⅠ
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業（1講座20名程度）				
科目の内容	一学期	紙による立体表現（基礎）			
	二学期	立体造形表現（基礎）			
	三学期	立体構成（基礎）			
履修対象	美術系（デザイン・工芸）に進路を考えている者 立体造形やデザインに興味がある者				
評価方法	完成作品が提出されていることが前提で、出席状況・授業態度、作品の制作過程、完成度などを総合的に評価する。				
教材	配布プリント・スケッチブックなど				
諸経費	材料費の購入に5,000円程度必要				
備考	課題作品には意欲・根気を持って取り組み、提出期限を守ること。 ※課題内容は都合により若干変更される場合があります。				

教科 [ 外国語 ]

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ			略称	コ2
単位数	4	科目の種類	共通	関連系列	全系列
授業形態	習熟度別クラス編成による2クラス3展開授業				
科目の内容	一学期	○コミュニケーション英語Ⅰで養った情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力をもとに積極的にコミュニケーション能力を更に伸ばすことを目標とする。 ○自分が伝えたい情報や考えなどを受け手に対して適切に伝えることのできる能力を養う。			
	二学期	○聞いたり読んだりしたもの、学んだり経験したことにもとづいて、話し合ったり、まとまりのある文章を書くことのできる能力を養う。			
	三学期	○1,2学期を通して行った言語活動をもとに、単語、文法の総復習を行い、語学力を高める。			
履修対象	2年次生全員				
評価方法	定期考査年5回 定期考査+授業参加度・提出物等の平常点を加味して総合的に評価する。				
教材	教科書 + 文法問題集・単語帳				
諸経費	上記副教材代				
備考					

科目名	英語表現ⅡA			略称	英ⅡA
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	○英文を読んで解釈したり、付随する問題を解いたりする。語彙・文法等に関する小テストを毎回の授業で行う。			
	二学期	○英文を読んで解釈したり、付随する問題を解いたりする。語彙・文法等に関する小テストを毎回授業で行う。また、学習した内容に関する英作文を行う。			
	三学期	○英文を読んで解釈したり、付随する問題を解いたりする。語彙・文法等に関する小テストを毎回の授業で行う。作成した英文に関する発表活動等も行う。			
履修対象	英語に基礎力があり、さらに表現力を高めたい者。大学進学を本気で考える生徒を対象とする。				
評価方法	定期考査、単語テスト・提出物などの平常点で、総合的に評価する。				
教材	教科書、市販テキスト				
諸経費	上記教材代。				
備考	辞書必携				

科目名	英語会話X			略称	英会話X
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	○場面や目的に応じた英語表現について学ぶ。 例 “Would you excuse me for a minute ?” “ No, problem. Take your time.”			
	二学期	○関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりできるようになる、 ○日常的な場面で生徒どうして会話のやり取りができるようになる。			
	三学期	○ジェスチャーなどの非言語的コミュニケーションについて学ぶ。			
履修対象	身近な話題について英語で積極的にコミュニケーションを図りたいもの				
評価方法	定期考査、授業参加度、平常点を加味して、総合的に判断する。				
教材	教科書				
諸経費	教科書代				
備考					

教科 [ 家庭 ]

科目名	栄養 X			略称	栄養
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・健康 生活・福祉
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	栄養素を中心に栄養の基本について学ぶ。 4月～6月 栄養素の機能と代謝 7月 エネルギー代謝と食事摂取基準 各種実習を通して食に対する知識や技術を深め高めていく。			
	二学期	年齢別に栄養を考えることで知識をひろげていく。 9～10月 栄養状態の評価 10～12月 年齢と栄養 各種実習を通して食に対する知識や技術を深め高めていく。			
	三学期	栄養の知識をスポーツや病態に応用する。 1～2月 スポーツと栄養 病態と栄養 各種実習を通して食に対する知識や技術を深め高めていく。			
履修対象	栄養・調理関係への進学希望者ならびに食生活全般について興味・関心がある者				
評価方法	定期考査（年2回あり） 出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポート(40%)、筆記考査(60%)を総合的に評価する。				
教材	教科書 食品成分表 配布プリント 実習機器および器具				
諸経費	年間5回程度実験実習を行う (各自負担となる費用 1回400円程度 年間総額約2000円)				
備考	3年生で選択可能な栄養 Y と内容は同じものとなります。				

科目名	服飾手芸			略称	服飾手芸
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	手芸の種類と特徴、変遷について学ぶ 手芸品（刺繍）の製作をし、二学期の文化祭において作品を展示する			
	二学期	服飾材料としての各種手芸の技法について学ぶ 手芸品（染色・編物）の製作			
	三学期	手芸品について、各自課題を設定し製作を行う			
履修対象	手芸に興味がある者				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・作品などを総合的に評価する。				
教材	教科書・プリント 裁縫用具他は各自で持ってくる。				
諸経費	各自負担（布、糸等の実習材料）				
備考					

科目名	子どもの発達と保育			略称	発達保育
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生活・福祉
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月 乳幼児に関わる職業 5・6月 乳幼児の心身の発達と児童文化財 7月 乳幼児の生活と児童文化財			
	二学期	9月 乳幼児の生活と児童文化財 10・11月 乳幼児の保育 12月 乳幼児の保育			
	三学期	1月 乳幼児の保育 2・3月 乳幼児の福祉			
履修対象	児童福祉に興味・関心のある生徒で保育系進学希望者				
評価方法	定期考査（年3回あり） 出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポート、考査等を総合的に評価する				
教材	教科書、発達と保育学習ノート、実習用具				
諸経費	実習に伴う教材費（各自負担となる費用 3000円程度）				
備考	1学年で「社会福祉基礎 X」を履修しなかった生徒は、2学年で「社会福祉基礎 Y」をあわせて履修するとよい。3学年で「子ども文化」を選択する予定の生徒は、2学年で「子どもの発達と保育」を履修するのが望ましい。希望者で夏休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

科目名	ファッションデザイン			略称	ファシデ
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	平面デザイン ハーフサイズボディ実習（点、線、面【チュール】を手がかりにしたデザイン） ファッションデザイン画の基礎			
	二学期	ファッションデザインコンテスト応募 （文化祭）作品展示 ハーフサイズボディ実習（面【サテン】を手がかりにしたデザイン） 平面デザイン実習			
	三学期	スモッキングの作成 ハーフサイズボディ実習（スモッキングを利用したデザイン）			
履修対象	服飾関係について興味関心がある者（進学に必ず必要というわけではありません）				
評価方法	出席状況、授業への取り組み、作品・課題の提出などを総合的に評価する。				
教材	教科書 プリント				
諸経費	実習費として500円程度（画用紙、ドレスピンなど） その他の実習にかかる費用は個人負担				
備考	16名以内が望ましい。（ハーフサイズボディの数の都合上） 課題が多いので、宿題・居残りが課せられる場合があります。				

科目名	フードデザイン			略称	フードデ
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	食べ物のおいしさ 調理の基本操作 調味の基本 調理実験および調理実習 食品衛生について			
	二学期	食品の特徴と性質 (小麦粉、卵、魚介類、肉類、豆類、野菜、いも類など) 調理実験および調理実習			
	三学期	供応食・行事食について 調理実習			
履修対象	栄養・調理関係への進学希望者ならびに食生活全般について興味・関心がある者				
評価方法	定期考査(年2回あり) 出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポート(30%)、実技考査(35%)、筆記考査(35%)を総合的に評価する。				
教材	教科書・食品成分表 配布プリント 調理器具				
諸経費	年間15回程度実験実習を行う (各自負担となる費用 1回平均240円程度 年間総額約3,600円)				
備考	調理台数の都合上、28名を上限とする。 グループによる調理実験・実習を基本とする。				

科目名	ファッション造形基礎Ⅰ			略称	造形基礎
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	採寸と原型作成 スカートの製作			
	二学期	チュニックブラウスの作成 文化祭作品展示(ファッションショーに一部出品)			
	三学期	原型を応用したブラウスの作成			
履修対象	被服製作に興味がある者。デザインについてはあまりふれません。 2年生の場合、来年度被服製作Ⅱの履修を希望するもの。				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・作品などを総合的に評価する。				
教材	教科書・プリント 布、裁縫用具は各自で持ってくる。				
諸経費	各自負担(布、糸等の実習材料)				
備考					

科目名	消費生活	略称	消費生活
-----	------	----	------

単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	人生をどのように生きるか、どのように生活するかについて、経済面を中心に学ぶ。 4月～5月 一人暮らしのための生活設計 6月～7月 契約と消費生活（消費者トラブルの回避方法・対処方法）			
	二学期	人生をどのように生きるか、どのように生活するかについて、法律面を中心に学ぶ。 9月～10月 消費者生活と安全、生活情報の活用について 11月～12月 生活と法律について			
	三学期	人生をどのように生きるか、どのように生活するかについて、卒業後の経済的な自立をシミュレーションする。 1月～2月 家計管理および貯蓄について			
履修対象	家庭経済および生活設計に興味・関心のある者				
評価方法	定期考査（年2回あり）、出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポートを総合的に評価する				
教材	教科書 配布プリント				
諸経費					
備考					

科目名	日本の伝統・文化			略称	伝統文化
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	華道の稽古 生け花の基本について実習を通して学ぶ。（龍生派） 4～5月 水盤・コンポートを使用した基本花型 6～7月 水盤・コンポートを使用した自由花型			
	二学期	華道の稽古 生け花の基本について実習を通して学ぶ。（龍生派） 9月 投げ入れを使用した花型、線・面・マスの手法、文化祭発表 茶道の稽古 客の心得、風炉の点前について実習を通して学ぶ。（表千家） 10～12月 割り稽古			
	三学期	茶道の稽古 客の心得、風炉の点前について実習を通して学ぶ。（表千家） 1～3月 薄茶風炉点前の稽古			
履修対象	日本の伝統文化に興味がある者。 一講座につき15名まで。（希望者が多い場合は選抜を行います）				
評価方法	毎回の授業の取り組みを評価する。				
教材	教科書「龍生派の自由花 入門・初伝」「龍生派の自由花 中伝」 プリント等（持っている場合は、ふくさ、懐紙、花ばさみ等）。				
諸経費	30000円程度（お茶、お菓子、花、その他道具代） その他				
備考					

教科 [ 福祉 ]

科目名	社会福祉基礎 Y			略称	社福基 Y
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生活・福祉
授業形態	選択者による一斉授業（2・3年合同）				
科目の内容	一学期	社会福祉に関わる基礎的なことがらについて学習する。			
		4月	福祉の職業		
		5月	現代社会と社会福祉		
6月		社会福祉の理念と意義			
二学期	7月	社会福祉の歩み			
	10月	福祉分野の現状と課題			
三学期	11・12月	障害者・高齢者理解			
	1月	障害者・高齢者理解			
履修対象	2・3月	社会福祉の担い手と福祉社会への展望			
	1年生の「社会福祉基礎 X」と同一内容。「生活支援技術 A・B」を選択する生徒はあわせて選択することにより、より内容を深めることができるのでぜひ選択すること。福祉・保育系に進路を希望する生徒は選択すると良い。				
評価方法	定期考査 年3回あり 出席状況・授業への取り組み・課題の提出・定期考査などを総合的に評価する。				
教材	「社会福祉基礎」教科書・実習機器および器具				
諸経費	教科書の他に5000円程度（クラフト材料・手話検定）				
備考	希望者で休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

科目名	生活支援技術 A			略称	生活支援 A
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生活・福祉
授業形態	科目選択者による一斉授業（2学年のみ）				
科目の内容	一学期	4月 障害者福祉に関する制度及びサービス			
		5月 知的障害者ホームヘルプサービスに関する知識			
		6月 サービス利用者の理解・移動支援の基礎知識			
7月 移動支援に係る技術					
二学期	9月 移動支援に係る技術				
	10月 身体障害者ホームヘルプサービスに関する知識・サービス利用者の理解				
	11月 サービス利用者の理解・移動支援の基礎知識				
三学期	12月 移動支援の基礎知識				
	1月～3月 車いすでの移動の支援に係る技術				
履修対象	福祉・医療系進学希望者および「知的障害者移動支援従業者養成研修」・「全身性障害者移動支援従業者養成研修」の修了を目指す生徒は選択すると良い。3年次に「生活支援技術 B」を選択したい人は、2年次に「生活支援技術 A」を選択すると良い。				
評価方法	定期考査 年3回あり 出席状況・授業への取り組み・課題の提出・定期考査などを総合的に評価する。				
教材	教科書、「知的障害者移動支援従業者養成研修」・「全身性障害者移動支援従業者養成研修」テキスト、実習機器および器具				
諸経費	教科書・テキスト代の他に実習に伴う教材費として自己負担 500円程度				
備考	「知的障害者移動支援従業者養成研修」・「全身性障害者移動支援従業者養成研修」講習のため授業開始が10分早まる。欠席が多いと修了証の発行が出来ない。授業内で移動支援に関わる演習を行う。この授業を選択する生徒で、1年次に「社会福祉基礎 X」を履修していない生徒は「社会福祉基礎 Y」をあわせて履修するとよい。夏休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合				



宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。(参加費用が別途かかる)
--

科目名	*点字実習			略称	点字実習
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生活・福祉
授業形態	選択者による一斉授業(2・3年合同)				
科目の内容	一学期	視覚障害者への理解を深め、点字の基礎から学習をする。			
		4月	視覚障害者理解		
		5月	点字の成り立ち		
		6月	点字の基礎		
	二学期	7月	分かち書き		
		9月	分かち書き		
		10・11月	短文の点訳		
	三学期	12月	郵便物や長文の点訳		
		1月	重複障害者におけるコミュニケーション方法の理解		
		2・3月	視覚障害者ガイドヘルプの知識 コンピュータ点訳による点字の作文		
履修対象	「生活支援技術A・B」を選択する生徒はあわせて選択することにより、より内容を深めることができる。保育・福祉系に進路を希望する人は選択すると良い。				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・課題の提出・毎時間の小テストなどを総合的に評価する。				
教材	準教科書・点字用具				
諸経費	テキストの他に点字盤・点筆・点消し棒・点字用紙などの費用として2700円程度				
備考	希望者で夏休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。(参加費用が別途かかる)				

教科 [ 情報 ]

科目名	情報演習 A (文書デザイン)			略称	情報演 A
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・技術
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	文書処理に関する基礎技術を学ぶ。タイピング練習、全商ビジネス文書実務検定 1,2 級程度の問題を 通年で学習する。				
	一学期	4月 ・ワープロソフト基本操作① (ワープロソフト概要、タイピング練習 [通年]) 5月 ・ワープロソフト基本操作② (文字の入力) 6月 ・文書レイアウト、ビジネス文書作成 7月 ・各種編集作業、表の作成 (罫線の活用、計算、ソート)			
	二学期	9月 ・様々な表現方法 (図形の活用、様々な罫線表現、色) 10月 ・ワープロソフトを活用したデザイン、図表等 11月 ・POPデザイン製作 12月 ・DTPソフトを利用したデザイン広告製作			
	三学期	1月 ・DTPソフトを利用した文書レイアウト応用 2~3月 ・DTPソフトを利用した紙面のデザインとレイアウト			
履修対象	文書作成に興味のある者。ビジネス文書実務検定試験受験が必須となる。				
評価方法	出席状況、課題提出状況、小テスト、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	Word、DTP ソフト 他				
諸経費	最大4,000円程度 (検定試験受験料)				
備考					

科目名	情報演習 B (マルチメディア①)			略称	情報演 B
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・技術
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	静止画像を中心として扱う。画像の処理合成、グラフィックデザインの制作等を通じて、各種グラフィックス関連ソフトの使用方法を学ぶ。				
	一学期	4月 ・ペイント系アプリケーションソフトの原理と操作方法 5月 ・写真画像の選択編集、色調補正、フィルタの利用、画像合成の方法 6月 ・画像入力装置の操作、文字の作成編集、総合作品制作 7月 ・ドロー系アプリケーションソフトの原理と操作方法			
	二学期	9月 ・ベジェ曲線の作成演習、画像構成、画面効果に関する基礎知識 10月 ・レイアウト編集 11月 ・サイン・ディスプレイ等の制作 12月 ・CDジャケット・ポスター等の制作 (1)			
	三学期	1月 ・CDジャケット・ポスター等の制作 (2) 2~3月 ・CDジャケット制作 (3)			
履修対象	マルチメディアに興味のある者。 3年次に情報演習 G (マルチメディア②) の受講を考えている者は必修科目となる。				
評価方法	出席状況、課題提出状況、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 他				
諸経費					
備考					

科目名	情報演習C (通信ネットワーク)			略称	情報演C
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・技術
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	ネットワークの基礎、HTMLの理解、ネットワークの構築、ネットワークの運用、ネットワークの安全対策等の学習をおこなう。				
	一学期	4月 ・インターネットと情報通信ネットワークの仕組み、HTMLの基礎と活用 5月 ・通信ネットワークシステムの基本的構成、WEBサーバの構築と活用 6月 ・FTPサーバの利用、ASPの利用 7月 ・CSSの利用とサーバ等の構築			
	二学期	9月 ・メールサーバ等の構築 10月 ・通信ネットワークシステムの構築 11月 ・CGI等の利用と構築 12月 ・通信ネットワークシステムの運用・管理			
	三学期	1月 ・WEBページの保護とセキュリティの知識・技術 2～3月 ・WEBページの運用・管理			
履修対象	通信ネットワークに興味のある者。				
評価方法	出席状況、課題提出状況、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	ブラウザ、FTP、Web 他				
諸経費					

科目名	情報演習D (プログラミング)			略称	情報演D
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・技術
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	コンピュータプログラミングの考え方を学ぶ。原則としてVBA等でのプログラミングの学習を通じて基礎的なプログラミングの方法を学ぶ。				
	一学期	4月 ・プログラミングの基礎と原理(Excel VBAの使用法) 5月 ・イベントドリブン型BASICの基礎、構造化プログラミングの方法 6月 ・イベントドリブン型BASICの簡単なデータ処理 7月 ・様々な簡易プログラミング言語の利用(1)			
	二学期	9月 ・様々な簡易プログラミング言語の利用(2) 10月 ・プログラミングを利用した開発方法と手順 11月 ・開発ツールの利用とライブラリ 12月 ・アプリケーション開発演習(1)			
	三学期	1月 ・アプリケーション開発演習(2) 2～3月 ・アプリケーション開発演習(3)			
履修対象	プログラミングに興味のある者。				
評価方法	出席状況、課題提出状況、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	イベントドリブン型BASIC、FLASH等 他				
諸経費					
備考					

科目名	情報演習E (シミュレーション)			略称	情報演E
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・技術
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	Excel等を使い、表計算の活用や関数の利用を中心に学習する。				
	一学期	4月 Excelの復習(簡単な計算) 5月 活用①ワークシート連携(シート間集計、3D参照、シートのリンク、データ統合) 6月 活用②グラフ、印刷に関する操作 7月 データベースに関する操作			
	二学期	9月 エクセル応用①表計算機能(様々な関数の活用) 10月 エクセル応用②マクロ機能の活用 11月 モデル化とシミュレーションについて(1) 12月 モデル化とシミュレーションについて(2)			
	三学期	1月 表計算の活用、シミュレーションの基本 2～3月 自然現象や社会現象のシミュレーション			
履修対象	表計算に興味がある者。Excelを習得したい者。				
評価方法	出席状況、課題提出状況、小テスト、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	Excel、ブラウザ 他				
諸経費					
備考					

教科 [ 工業 ]

科目名	*CAD I			略称	CAD I
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	1学期	コンピュータの援用による設計 [Computer Aided Design] 自動設計製図の基礎を学習する。 □CAD[Solid Works]システム ・概要、構成・ソフト 練習・課題 ～5月 ・3Dによる基本的な図形作画・報告書 ～7月			
	2学期	* 主に工業製品・部品の図面、立体物を描く。 ～9月 ・機械機構・機械部品の課題練習 10月～12月			
	3学期	・課題作品制作・レポート作成 ～1月 ・作品制作 ～3月			
履修対象	特に限定なし				
評価方法	出席状況、授業態度、課題作品など総合的に評価する。				
教材	テキスト				
諸経費					
備考					

科目名	工業技術基礎 Y			略称	工業技Y
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	科目選択者による一斉授業（1講座16名以内）でTT実習を行う				
科目の内容	1 学期	機械・電気に関する分野の基礎的な知識と基本的な工業技術を実習を通して学習する予定である。			
	2 学期	(ア) 製図・展開図（小物作品課題）の見方、図面の書き方 機械製図の基礎とCADの入門技術。			
	3 学期	(イ) 工具・用具・工作機械類の基本加工法 手仕上げなどの加工法の基本技術			
		(ウ) 旋盤・ボール盤・レーザー加工機による使用法・操作法の実習  (エ) 電気計測の基本実習 電流計・電圧計・テスター・オシロスコープなどの使用法・操作法の実習  (オ) 電子回路の基本工作実習			
履修対象	・ 工業技術に興味・関心があり、3年次以降に工業科目の履修希望者。ただし、1年次に工業技術基礎 X を履修したものは受講できません。				
評価方法	出席状況や授業への取り組み姿勢、製作課題・報告書などを総合的に判断して評価する。				
教材	教科書あり、「工業技術基礎」（実教出版社）				
備考	作業服の購入を推奨する。				

科目名	工業実習 A（電気系）			略称	工業実A
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	科目選択者による一斉授業（12名以内）で実験・実習が中心				
科目の内容	1 学期	直流回路の電圧と電流 電気回路、オームの法則、抵抗回路、キルヒホッフの法則 電力とエネルギー 電流の発熱作用、電力と電力量、温度上昇と許容電流 電気抵抗 抵抗率と導電率、抵抗の温度係数			
	2 学期	電流と磁気 磁石と磁気、電流による磁界、磁界の強さ 磁界中の電流に働く力 電磁力、コイルや導体に働く力 磁性体と磁気回路、鉄の磁化曲線 電磁誘導、インダクタンス、電磁エネルギー 静電気 コンデンサ、コンデンサの接続、静電エネルギー			
	3 学期	交流回路 交流の基礎、正弦波交流、角周波数 R, L, Cの働き 位相差とベクトル、R, L, C単独の回路、			
履修対象	・ 工業の電気について興味・関心がある者。 ・ 電気に関係する資格取得を将来考えている者。 以上、2つのうち1つでも該当していれば可				
評価方法	出席状況や授業への取り組み姿勢、製作課題・報告書などを総合的に判断する。				
教材	教科書あり、「工業技術基礎」（実教出版社）、電卓（関数計算のできるもの）				
備考					

科目名	工業実習 B (機械系)			略称	工業実B
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	科目選択者による一斉授業 (12名以内) で実験・実習が中心				
科目の内容	1 学期	工業の実験・実習・工作の作業を通して、基礎・基本的な工業技術を習得する。 ・製図・図面の見方、書き方 4月～ ・展開図 (小物作品製作) ・工具・用具・機械類の使用法・操作法 ～6月 ・計測方法・報告書の書き方 7月～			
	2 学期	・旋盤・ボール盤・レーザー加工機による機械の操作 (安全・使用法) ～9月 ・機器の取り扱い (操作方法) ・作品製作 (課題)			
	3 学期	・旋盤・ボール盤・レーザー加工機による工作実習 (部品、作品製作)			
履修対象	機械工作・ものづくり等に関心のある者				
評価方法	出席状況、取り組み態度、製作課題・報告書などを総合的に判断する。				
教材	教科書あり、「工業技術基礎」(実教出版社)				
諸経費					
備考	作業服の購入を推奨する。				

科目名	工学基礎			略称	工学基礎
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	科学・技術
授業形態	科目選択者による一斉授業で講義と実習を行う				
科目の内容	1 学期	工学の各分野における事象の数理的な処理に関する基礎的な知識と基本的な技術を習得し、活用できる能力と態度を学習する予定である。 4月 基本的な数理の取り扱い方と関数電卓の使い方 5月 単位の換算と電卓による計算技術 6月 組み立て単位の換算と電卓による計算技術 7月 速さと加速度と電卓による計算技術			
	2 学期	9月 力と仕事、エネルギー 10月 ベクトルと計算技術検定の問題 11月 円運動と計算技術検定の問題 12月 電流と電圧の計算			
	3 学期	1月 電気の流れと抵抗の計算 2月 電圧降下 3月 数値処理とグラフ			
履修対象	・数学と工業に興味・関心がある者。 ・計算技術検定の資格取得を将来考えている者。 以上、2つのうち1つでも該当していれば可				
評価方法	定期考査あり。 出席状況や授業への取り組み姿勢、ノートや報告書などを総合的に判断して評価する。				
教材	教科書あり、「工業技術基礎」(実教出版社)、計算技術問題集、関数電卓				
諸経費	問題集 約750円、電卓2000円				
備考					

教科 [ 商業 ]

科目名	簿記			略称	簿記
単位数	4	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と、そのための技術である「簿記」の基本的な仕組み・方法を学習する。教科書とワークブックを用いて日商簿記検定3級の範囲を扱う。				
	一学期	4月	簿記の基礎（要素・取引・勘定科目・仕訳・転記等）		
		5月	仕訳と転記（仕訳帳と総勘定元帳について記帳等の練習をする。）		
		6月	決 算 ①（合計残高試算表、繰越試算表、仕訳帳・総勘定元帳の締切等）		
7月		決 算 ②（6桁精算表、損益計算書、貸借対照表等）			
二学期	9月	取引（現金・預金・商品売買・掛取引・固定資産等）の記帳。			
	10月	手形取引・有価証券・その他の債権や債務等の記帳。			
	11月	決算整理（見越と繰延など）と少し進んだ決算（8桁精算表）等の学習。			
三学期	12月	仕訳伝票と3伝票制			
	1月	決算手続の復習等			
	2～3月	記帳例題等			
履修対象	*経済・経営系へ進学したい者 *将来、自分の店や会社を持ちたいと思っている者 *就職を考えている者 *入試・センター試験を簿記で受験することを検討している者 その他関心のある者を幅広く歓迎するが、簿記での大学受験を検討している者や検定級を就職活動・入試で活用したい者は、必ず2年次で履修すること。				
評価方法	定期考査（年4回） 定期考査を中心とし、問題集の進捗や課題提出などを加味して総合的に評価する。				
教材	教科書、問題集（複数）				
諸経費	問題集の代金として計2,500円程度、検定試験受検料1,000円が必要。				
備考	全員、検定試験を必ず受検します。また、開講後に各自で電卓を用意してもらいます。				

科目名	ビジネス基礎			略称	ビジネ基
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	小売業をはじめとする商業・サービス業の仕組み、企業の形態や企業活動の中身、様々な代金決済の方法、ビジネスに必要な技術の初歩など、ビジネスに関する基礎的な知識・技術を学習する。				
	一学期	4月	経済の仕組みとビジネス		
		5月	ビジネスの役割（商業…小売業と卸売業について）		
		6月	ビジネスの発展（商業の今までとこれから）		
7月		経済活動と流通（生産・物流・金融・保険・情報通信・サービス業などについて）			
二学期	9月	経済活動と流通（同上）			
	10月	流通活動と企業（株式会社をはじめとする会社組織の仕組みなど）			
	11月	ビジネスの担当者（実務に必要な、基本的な計算やマナーなどの知識）			
三学期	12月	売買取引と代金決済			
	1月	売買取引と代金決済			
	2～3月	コミュニケーション			
履修対象	*就職を考えている者 *経済・経営系の進学を考えている者 *その他、企業の活動や金融の仕組み、景気などに興味がある者				
評価方法	定期考査（年2回） 定期考査および課題提出を中心に、平常活動を加味して総合的に評価する。				
教材	教科書など				
諸経費	教科書代以外は不要				
備考	簿記など他の商業科目の履修を考えている者を優先します。				

科目名	経済活動と法			略称	経済と法
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	社会生活に関係の深い法律を学習する。身近な事例や履修者が持った疑問にも即しながら、働きつつ生きていく上で必要となりうる法律知識を重視する。				
	一学期	4月 社会生活と法…民事法の概念、権利・義務と財産権 5月 民法…財産権と契約①（契約について） 6月 民法…財産権と契約②（物の売買、貸借などについての法規） 7月 民法…財産権の保護（物権法、債務不履行や不法行為への対応）			
	二学期	9月 社会生活に関する法規（家族法、消費者保護法規など） 10月 雇用に関する法規（雇用契約、労働者の福祉に関する法規） 11月 企業活動に関する法規（会社法、小切手・手形に関する法規） 12月 紛争の予防と解決			
	三学期	1月 まとめ・総合問題演習			
履修対象	*法学部または経済・経営系の進学を考えている者 *就職を考えている者				
評価方法	定期考査（年2回）、課題、事例研究への取り組み、出席などを総合的に判断する。				
教材	教科書、資料集				
諸経費	資料集代として1,000円程度				
備考	2年次での履修は、面談の上、十分な素養や動機が認められる場合に限って許可します。基本的には、国語・地歴公民・数学などの各科目、および上記「ビジネス基礎」などを十分に学び、一般常識や論理的思考力を身につけてから履修する科目です。				

教科 [ \*国際文化理解 ]

科目名	*観光			略称	観光
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月～6月 国内交通機関の運賃・料金・サービスと利用方法（概説および鉄道・バス） 7月 旅行プランの企画立案および発表			
	二学期	9月～10月 国内交通機関の運賃・料金・サービスと利用方法（航空・その他） 11月 国内宿泊施設の確保・予約方法や標準的な利用ルール 12月 旅行プランの企画立案および発表			
	三学期	1月 国内旅行地理 2月～3月 旅行プランの企画立案および発表			
履修対象	国内の交通機関や宿泊施設、またはそれらの利用方法や料金体系に関心のある者。関係の業種に進むことを考えている者も適しているが、あくまでも教養講座。				
評価方法	定期考査（年3回）、課題学習における調査・発表、出席などを総合的に評価する。 なお、休日に外出をし、それをもとにレポートを書く課題を複数回出題する。このレポートが評価の上で大きなウェイトを持つので、 <u>部活動などで休日が多忙な者は、関係する大人とよく相談してから履修相談に来ること。</u>				
教材	時刻表、ワークシート、パンフレットなど				
諸経費	時刻表代金1,150円、および上記レポートのための交通費（各自の行先による）				
備考	授業内容が国内旅行に限られていることに注意してください。				



科目名	*演劇			略称	演劇
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業（講義・演習・発表）				
科目の内容	1学期	4月	身体と声を使って心身を解放するゲーム等を通して演劇の基礎となる人間関係を築く		
		5月	心身解放のワークショップ、声による表現・コミュニケーション・身体表現を学ぶ		
		6月	シナリオの構造の理解。		
		7月	日常の会話をスケッチし、これを表現する。		
	2学期	9月	スケッチから演劇へと発展させていく		
		10月	舞台スタッフの役割について学ぶ。		
		11月	各自のスケッチを総合し、演劇のシナリオへと発展させていく。		
	3学期	12月	舞台作りの知識を深め、シナリオを創作していく。		
		1月	上演に向けて作品を制作する		
2月		上演に向けてのレッスン。			
3月	上演。				
履修対象	教養講座として、演劇に興味のある生徒を対象とします				
評価方法	年間を通しレポート提出（創作シナリオを含む）・授業態度を評価し上演をもって考査に代える				
教材	別途指示します				
諸経費	なし				
備考	演劇の授業は教師が一方的に何かを生徒に教えるという授業ではありません。授業の中で何かを学ぼうという意欲と表現に対する意欲が必要です。身体を使う運動性の高い内容も多い授業です。				

科目名	*ドイツ語・ドイツ文化			略称	ドイツ語	
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション	
授業形態	選択者による一斉授業（日本人教員とネイティブ市民講師のT・T）					
科目の内容	一学期	言語面：①基礎単語・基本文型・基礎的文法項目など ②簡単な会話				
		文化面：地理・観光・歴史、風俗・習慣、芸術・スポーツなどについて（ビデオ・写真や現地資料を使っての解説）				
	二学期	言語面：①基礎単語・基本文型・基礎的文法項目など ②簡単な会話				
		文化面：地理・観光・歴史、風俗・習慣、芸術・スポーツなどについて（ビデオ・写真や現地資料を使っての解説）				
	三学期	言語面：①文法項目（再帰動詞、接続法など初級の続き） ②日常的な会話 ③簡単な内容の聞き取り・書き取りなど				
		文化面：地理・観光・歴史、風俗・習慣、芸術・スポーツなどについて（ビデオ・写真や現地資料を使っての解説）				
	履修対象	教養講座：ドイツ語やドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイスなど）の文化・社会事情に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者。				
	評価方法	定期考査（年3～4回あり） 定期考査を主とし、授業内の諸活動を加味して総合的に評価する。				
教材	市販のテキスト（初級用）、ワークシート類など					
諸経費	2500円程度					
備考						

科目名	*スペイン語・スペイン文化			略称	スペイン
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	選択者による一斉授業（日本人教員と外部講師のT・Tもしくは外部講師のみ）				
科目の内容	一学期	4月～5月 スペイン語の表記と発音と基本挨拶表現			
		6月 女性名詞・男性名詞、不定冠詞			
		7月 数の表現、買い物の表現			
	二学期	9月 定冠詞、動詞 <i>querer</i>			
		10月 時間			
		11月 複数形、色の表現			
		12月 体の部分の表現			
	三学期	1月 形容詞			
		2月 動詞 <i>ser&amp; estar</i>			
3月 所有の表現 動詞 <i>tener</i>					
履修対象	教養講座：スペイン語やスペイン語を母国語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者。2年次、3年次でも選択可				
評価方法	定期考査（年5回あり） 定期考査を主とし、授業内の諸活動を加味して総合的に評価する。				
教材	市販のテキスト（初級用）、辞書、ワークシート類など。				
諸経費	上記テキスト代（約2,000円）				
備考					

科目名	*フランス語・フランス文化			略称	フランス
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	選択者による一斉授業（日本人教員と外部講師のT・Tもしくは外部講師のみ）				
科目の内容	一学期	4月：フランス語での自己紹介、つづり字と発音。			
		5月：冠詞、疑問文と否定文、人称代名詞、動詞 <i>être</i> 。			
		6月：名詞、形容詞、人称代名詞強勢形。			
		7月：動詞 <i>avoir</i> 、否定の冠詞 <i>de</i> 、所有形容詞、前置詞と定冠詞結合形。			
		文化：地理・歴史、風俗・習慣、文学・芸術・スポーツ・芸能などについて			
	二学期	9月： <i>Ilya</i> 構文、代名詞 <i>en</i> 、疑問形容詞。			
		10月：「いくつ」、「どれくらい」。近接未来、近接過去。代名詞 <i>y</i> 。			
		11月：目的語人称代名詞。命令形、代名動詞。			
		12月：過去分詞、目的語代名詞、 <i>y, en</i> 。 文化：地理・歴史、風俗・習慣、文学・芸術・スポーツ・芸能などについて			
三学期	1月：部分冠詞、数量表現、総称。				
	2月：複合過去。単純未来。 3月：仮定法。				
	文化：地理・歴史、風俗・習慣、文学・芸術・スポーツ・芸能などについて				
履修対象	教養講座：フランス語やフランス語を母国語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者。				
評価方法	定期考査（年4回あり） 定期考査を主とし、授業内の諸活動を加味して総合的に評価する。				
教材	市販のテキスト（初級用）、ワークシート類など				
諸経費	上記テキスト代（約2,500円）				
備考					

科目名	*中国語・中国文化			略称	中国語
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	選択者による一斉授業（日本人教員と外部講師のT・Tもしくは外部講師のみ）				
科目の内容	一学期	中国語の知識が全く無いものとして、初歩段階の内容から学習を始める 4月～5月 基本挨拶表現・声調と母音・子音 6月 動詞「是」、助詞「的」、連動文、「中国の国旗」 7月 助動詞「想」、動詞「有」、「中国の民族」			
	二学期	9月 動詞「在」、前置詞「往」、「中国の首都」 10月 数のいい方、値段のたずね方、「中国の主要都市」 11月～12月 年月日、曜日、年齢のいい方、「中国の世界遺産」			
	三学期	1月 文末の「了」、「中国の教育」 2月 助動詞「会」、「中国の料理」			
履修対象	教養講座：中国語や中国語を母国語とする国の文化に興味があり、様々な活動に意欲的、積極的に取り組める者。				
評価方法	定期考査（年5回あり） 定期考査を主とし、授業内の諸活動を加味して総合的に評価する。				
教材	市販のテキスト（初級用）、辞書、ワークシート類など。				
諸経費	上記テキスト代（約2,500円）				
備考					

科目名	*環境A			略称	環境
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月～5月 環境問題とはどんな問題なのか（公害問題から環境問題へ） 6月～7月 世界の環境問題の現状は（自然環境問題） 7月 環境問題についての考えを発表			
	二学期	9月～10月 世界の環境問題の現状は（社会環境問題） 11月～12月 つばさの環境活動とは、企業で行っている環境活動とは 12月 環境についてのレポート作成・発表			
	三学期	1月～2月 企業における環境活動・環境教育 2月～3月 課題についての発表			
履修対象	環境・環境問題（自然環境・社会環境）に興味や関心のある生徒。また将来環境関連の進路を検討している生徒。実際にさまざまな環境活動を行っている生徒（行いたいと考えている生徒）。				
評価方法	学期ごとに示す課題をレポートとして提出する。また、そのレポートを発表する。レポートの内容や発表の方法、内容、態度、また授業への出席などにより総合的に評価する。 なお、外部の方に授業に来ていただき講義していただくことも予定している。その際の積極性や受講態度なども評価の対象とする。積極的な姿勢を期待しています。				
教材	その都度用意する				
諸経費	特にない				
備考	自分の意見を発表する。積極的に授業に参加し考える生徒を希望します。				

教科 [ 奉仕 ]

科目名	奉仕			略称	奉仕
単位数	1	科目の種類	必修	関連系列	全系列
授業形態	クラス単位の一斉授業				
科目の内容	目標	奉仕活動の理念と意義を理解し、奉仕に関する基礎的な知識・技術を習得するとともに地域貢献できる人材を育てる。現代社会における自己実現、自分自身の生き方・在り方を求める。			
	一学期	4月 「奉仕」オリエンテーション・講話・クラスディスカッション・奉仕体験事前学習 5月 講話・クラスディスカッション 7月 講話・クラスディスカッション、奉仕体験活動			
	二学期	10月 講話・クラスディスカッション 11月 ボランティア講演会 12月 講話・クラスディスカッション、奉仕体験活動			
	三学期	1月 奉仕体験活動 3月 奉仕体験活動・報告書作成、発表			
履修対象	2学年全員				
評価方法	授業や体験学習への取り組み、課題の提出等を総合的に判断し、文章による評価を行う。				
教材	準教科書「奉仕」 ワークシート(校内作成)				
諸経費	外部での体験・見学等に参加する際の交通費。(個人により異なる)				
備考	◇ 通年で1単位を授業時間外で実施。				

教科 [ 総合 ]

科目名	総合的な学習の時間			略称	総学2
単位数	2	科目の種類	必修	関連系列	全系列
授業形態	一斉授業／各自が設定したテーマによる個人の個別活動				
科目の内容	目標	進路選択を意識しながら、一人ひとりが研究テーマを設定し、課題解決や探求活動に取り組む。研究及びその成果発表のプレゼンテーションのあり方についても各自で学習を進める。			
	一学期	4月 「総合的な学習の時間」オリエンテーション 5月 進路適性検査、上級学校模擬授業 6月 履修指導 7月 夏季研究の進め方、テーマの決定			
	二学期	9月 夏季研究テーマの報告書作成、研究成果発表 10月 研究テーマの決定 11月 コーディネーター(担当教員)の支援のもと、調査・研究活動、製作活動等を実施 12月 調査・研究活動、製作活動等			
	三学期	1月 調査・研究活動、製作活動等 2月 調査・研究活動、製作活動等 3月 報告書作成、研究成果発表			
履修対象	2学年全員				
評価方法	日頃の研究活動、報告書、発表等を総合的に判断し、文章による評価を行う。				
教材	各自で必要なものを用意する。(個人によって異なる)				
諸経費	外部での体験・見学等に参加する際の交通費。(個人により異なる)				
備考					